

新美南吉記念館だより

新美南吉生誕 100 年まで 2 年 5 か月

発行 新美南吉記念館 〒 475-0966 愛知県半田市岩滑西町 1-10-1 TEL0569(26)4888 <http://www.nankichi.gr.jp>

第二十四回新美南吉顕彰講演会開催 南吉童話の声、南吉童話の場所

一月三十日(日)、新美南吉顕彰会・半田市教育委員会主催の新美南吉顕彰講演会が開催されました。会場の雁宿ホールには120人が集まりました。

講師の宮川健郎氏

(武蔵野大学文学部教授)は、「ごん狐」と「おぢいさんのランプ」を取りあげ、作品の中の「声」と「場所」が果たす役割や魅力などについて

「童話の声」
「ごんぎつね」は、「私がおじいさんから聞いた話」という設定で書かれています。南吉はなぜこうした設定をしたのか。それは随筆

「童話に於ける物語性の喪失」
「童話」に於ける物語性の喪失」を讀むと分かります。「何故口で語られる童話と紙に印刷される童話が全然別種なものとならぬのか。私には紙の童話も口の童話も同じジャンルだと思われる。」

「二つのごんぎつね」
「ごんぎつね」には、『赤い鳥』に発表された「ごん狐」と、作品帳に書かれた草稿「権狐」が存在します。現在流布しているのは『赤い鳥』に発表されたもので、「権狐」は「徳川様が世をお治めになっ

た頃」の話として、半田を舞台に書かれています。南吉はこれを投稿し、主宰者鈴木三重吉の改変を経て「ごん狐」として掲載されたのです。三重吉は、時代、地域を特定する部分や方言を、削ったり一般的な言葉に置き換えたりしました。全国の不特定多数の人に読まれる雑誌では、時代性や地域性をなくし流通性を高めることが必要と考えたのでしょう。「ごんぎつね」が現在、教科書に掲載される多くの人に読まれているのは、この三重吉の改変があったからと言えるかもしれません。

「童話の場所」
三重吉によって「権狐」の冒頭部分はほとんどカットされ、「語りの場」の存在は弱められてしまいました。南吉はこの改変に不満を持っていましたが、後におぢいさんのランプ」でも、同じ設定を使って書いています。また「語りの場」が存在する「村は、岩滑新田、



▲ 講師 宮川健郎氏 (雁宿ホール講堂・1月30日)

「童話に於ける物語性の喪失」
「童話」に於ける物語性の喪失」を讀むと分かります。「何故口で語られる童話と紙に印刷される童話が全然別種なものとならぬのか。私には紙の童話も口の童話も同じジャンルだと思われる。」

「二つのごんぎつね」
「ごんぎつね」には、『赤い鳥』に発表された「ごん狐」と、作品帳に書かれた草稿「権狐」が存在します。現在流布しているのは『赤い鳥』に発表されたもので、「権狐」は「徳川様が世をお治めになっ

た頃」の話として、半田を舞台に書かれています。南吉はこれを投稿し、主宰者鈴木三重吉の改変を経て「ごん狐」として掲載されたのです。三重吉は、時代、地域を特定する部分や方言を、削ったり一般的な言葉に置き換えたりしました。全国の不特定多数の人に読まれる雑誌では、時代性や地域性をなくし流通性を高めることが必要と考えたのでしょう。「ごんぎつね」が現在、教科書に掲載される多くの人に読まれているのは、この三重吉の改変があったからと言えるかもしれません。

「童話の場所」
三重吉によって「権狐」の冒頭部分はほとんどカットされ、「語りの場」の存在は弱められてしまいました。南吉はこの改変に不満を持っていましたが、後におぢいさんのランプ」でも、同じ設定を使って書いています。また「語りの場」が存在する「村は、岩滑新田、

深谷、半田池など実在する地名を用いて描かれました。これには、読者が、実在する場所から「村」をイメージしやすいという効果がありました。作品の中の村は、あくまでも南吉が創り出した虚構ですが、その虚構の中に「語りの場」があり、背後には現実の場所がつつながっている。南吉がこの三重構造をつくった上で「語り」を行ったことも、南吉童話の魅力の一つなのではないかと思えます。

「声のわかれ」

小川未明や宮沢賢治、新美南吉など、大正から昭和戦後にかけて書かれた「童話」に対して、昭和三十四年以降の子どもの文学を「現代児童文学」と呼んでいます。佐藤さとるが戦争体験を下じきにした『だれも知らない小さな国』を発表した年です。戦争を経て、児童文学でも、社会的な事件や子ども達を巡る現実を取りあげざるを得なくなりしました。詩的だった言葉は物事を説明するために散文的になり、作品は長編化しました。十代前半位の、読み聞かせを必要とし

ない子どもを対象にした作品が多くなったこともあり、現代児童文学は、読み聞かせや、子ども自身による音読には適さないものになってきています。テーマも、戦争、社会、性死、家庭崩壊など一般の文学と変わらなくなり、大人にも読まれるようになってきます。平成に入り二十数年、子どもの文学とは何なのか、曖昧な状態です。

「声の復権」

声は語り手の体の続きで、その声に向かうのも聞き手の体です。物語を読み聞かせることは、一緒にお風呂に入るような、体と体の付き合いに近いと私は思っています。口の童話と紙の童話を同じであると考えていた南吉も、読者との関係を同様に考えていたのではないのでしょうか。しかし戦争や社会的な事件などを深く緻密に書こうとした現代児童文学では、作品と読者との関係は変わってしまいました。しかし、児童文学は大人が子どもに向けて書くもので、「声」を排除してはいけないと思っています。だからこそ、賢治



や南吉を読み直そうとする動きが出て来るのだと思いますが、私はずいぶん、現代児童文学の中から声で物語ることを復権してほしいと思っています。

■宮川先生にお聞きしました
—「童話の声」に注目されるようになったきっかけは何ですか？

南吉の「童話に於ける物語性の喪失」もきっかけの一つかもしれません。学生や自分の子どもに読み聞かせをしているうちに興味を持つようになったということもありますね。

—近年、南吉作品が脚光を浴びるようになった理由を、宮川先生はどうお考えですか？

「こんぎつね」が教科書に載っているということ、それにやはり話し言葉で平明に書かれている点も大き

いのではないのでしょうか。
—「こんぎつね」以外で、今後子どもたちに受け入れられそうな作品は？

「久助君の話」はどうですか。小学校高学年から中学生くらい、ちょうど思春期に差し掛かった子ども達は面白く感じてくれると思います。世界が変わってしまったと感じる場面など、子ども達が実際に体験していることだと思います。
—今の子どもたちは教科書

『新美南吉幼年童話集』発売

昨年十二月、半田市教育委員会が、小学校用に集団読書テキスト『新美南吉幼年童話集』を発行しました。

美南吉という、四年生で学習する「こんぎつね」がよく知られていますが、半田市教育委員会では、低学



以外でも南吉作品を読んでいるのでしょうか？
読んでいると思いますよ。子どもに読んだことがある作品について質問しても何も答えられないかも知れません。でも、何も答えられないから何も思っていないということではないんです。子どもは思いを言葉にするのが得意ではない。しかし何か思っているものなんですよ。

—ありがとうございます。
—ありがとうございます。

南吉とわたし ⑫ アニメーション監督 滝口 禎一

今回、文化庁が主催する若手アニメーター育成プロジェクトに、私共の会社も応募することになり企画したのが、新美南吉の「おぢいさんのランプ」が原作のアニメーション作品でした。プロジェクトの内容について簡単に説明すると、四本のアニメーション作品を、業界における若手の育成の一環として、それぞれのスタジオで作るといふもので、幸いなことに、私共の企画がその中の一つに選ばれました。

応募作が新美南吉の作品に決まったのは、私共のスタジオ（テレコム・アニメーションフィルム）のプロデューサーから、「これを作ってみないか？」と「おぢいさんのランプ」原作を渡されたのがきっかけでした。

初めて読んだ「おぢいさんのランプ」でしたが、その内容は驚くほど、現在の私達が直面している問題そのものに思えて来ました。

技術の進歩は社会生活を根底から変えて、先に進む者、流れに取り残された者を生み出します。そこでは痛みや悲しみ、やり場のない怒りを伴うこともあります。この作品ならアニメ化しても、今の人達に共感してもらえないに違いないと思えました。

昨年の夏頃から準備を始めたのですが、原作にある具体的な描写、竹製の台ランプの形や大野の町、半田池など、想像だけでは描けないため、ロケハン（ロケーション・ハンティングの略 現場を下見すること）に行ってみることにしました。自転車を輪行袋に詰めて、東京から新幹線、名鉄線乗り継ぎ、半田口に到着しました。劇中で巳之助が辿った道を体験するべく、自転車を走らせました。

まず、南吉の生家へ行き、当時の生活の様子等を見学しました。祭りの山車を納めた巨大な蔵のある神社の境内を歩き、「ごんぎつね」の舞台になった権現山を横に見ながら川縁を進み、「新美南吉記念館」に立ち寄りしました。そこには本物の竹のランプが展示されていて、長い間の疑問がようやく解けました。展示品はどれも興味深く、映像化する上で非常に役立ちそうに思えます。知らなかったのですが、挿し絵を棟方志功が描いていたのは驚きでした。

帰りがけに買った童話集「おぢいさんのランプ」を読み返してみましたが、どの作品も心に沁みわたるような美しいストーリーと人物描写の細やかさがあり、こんな素晴らしい童話の世界があったのか！と感激しました。

記念館を出て、ゆるやかな丘陵地帯をひたすらペダルを漕いで登りました。やがて半田池と思われる貯水池に到着しましたが、意外にも開けた印象で、思っていたイメージとは違いました。もっと深い森に囲われているものと思いついていたのです。日が傾きかけた頃、広い田園風景の中を走っていると、大きな橋が現れ、大野の町が見えて来ました。その先には劇中にある通り、海が広がっていたのです。

今回、舞台になる場所のイメージは極力忠実に表現したつもりですが、ストーリーは多少なりともアニメ用に脚色しました。特にラストの辺りは、前向きな巳之助を表現しようと、原作とはニュアンスが変わってしまったかもしれません。私はそれでも良いのではと思っています。ともあれ、「おぢいさんのランプ」をめぐる旅は、結果として大変有意義なものとなりました。



執筆者紹介 株式会社テレコム・アニメーションフィルム所属。『無人惑星サヴァイヴ』『タイドライン・ブルー』などでキャラクターデザイン、作画監督を、『

空の境界』第四章「伽藍の洞」（2008 ufotable 制作）では監督を務めました。1996 には「A PINKY & THE BRAIN CHRISTMAS SPECIAL」（海外合作）においてエミー賞を受賞。今回の『おぢいさんのランプ』では絵コンテと監督を務めています。



「おぢいさんのランプ」3月5日（土）～11日（金）、東京、大阪、広島など全国8か所の映画館で他の3本とともに公開されます。また3月には毎日放送 土曜アニメシャワーでも放送される（関西圏のみ）予定です。詳しくは「平成22年度若手アニメーター等人材育成事業」の公式ブログをご参照ください。

記念館からのお知らせ 3月～5月

南吉生誕百年プロジェクト

角笛シルエット劇場



- ・新美南吉記念館
 - ・半田市役所学校教育課
 - ・雁宿ホール
 - ・半田市立博物館
 - ・半田市立図書館
 - ・亀崎図書館
 - ・半田市民交流センター
 - ・半田市青年の家
- ※事前に完売した場合、当日券はありません。

東京を拠点に、全国で公演をしている劇団角笛。「こんぎつね」の影絵劇を上演します。

日時 3月21日(祝・月)

13時30分 開場

14時00分 開演

※終演予定 15時40分

会場 雁宿ホール※名鉄

知多半田駅から徒歩3分

対象 どなたでも

プログラム

「おぼけリンゴ」

「つのおえのうた」

「こんぎつね」

チケット料金(全席自由)

大人 1000円

中学生以下 500円

※席が必要ない3歳未満の

幼児は無料

チケット販売

以下の施設で販売中です。

岩滑小学校移設百年記念展
アルバムの中の久助たち

今年、半田市立岩滑小

学校が現在の場所に移設さ

れて百年にあたります。新

美南吉の母校であり、代用

教員として勤めた学校でも

あります。南吉とも関わり

のあった山本仁三先生が撮

影した岩滑小学校の写真や、

「久助君の話」など、南吉が

同校を舞台にして書いた作

品に関する資料を展示して

います。

会期 5月15日(日)

場所 記念館エントラン

スホール

うたとお話の会

毎月第4日曜日の午後

図書室でうたとお話の会を

行っています。

場所 記念館図書室

時間 13時30分～14時

出演 左近治樹さん

小野敬子さん

展示室ガイド

ガイドボランティアが常

設展示室をご案内します。

実施日 毎週土曜日の午後

と、日曜日および祝日、

振替休日の午前と午後。

ガイドが待機している時間

午前 10時30分～12時30分

午後 13時30分～15時30分

※申込み不要。ガイドでき

ない日もあります。

新美南吉研究会

毎月数作ずつ南吉の作品

を読んでいます。南吉文学

に興味のある方ならどなた

でも随時入会できます。

場所 記念館会議室

時間 14時～16時

これからの予定

4月24日(日)

「のら犬」・総会

5月22日(日)

「ピエロと望遠鏡」

「殺された鼠」

※以上の事業・行事へのお

問い合わせ、お申込みは新

美南吉記念館まで

TEL0569(26)4888

○記念館主催の事業ではありませんが、当館に情報をいただいているものを紹介します。

「おぢいさんのランプ」

作品展

ギャラリー蔵のまちでは、

「おぢいさんのランプ」に

ちなんだ作品の展示を行っ

ています。プロ、アマを問

わず、多くの作家の作品が

展示されています。

会期 3月31日(木)

場所 ギャラリー蔵のま

ち(国登録有形文化財小

栗家住宅内)

問い合わせ

半田市観光協会

TEL0569(32)3264

日誌抄

12月(師走)

▽1日 キツネが野犬捕獲

用の檻に入っているのが見

つかる。翌日、中日新聞等

で報道される。於青葉野宮

場(半田市岩滑西町)▽4

日 半田商工会議所青年部

主催のペットボトルツリー
点灯式。於記念館駐車場
▽4、5日 「えと人形をぬ

ろう」行う。103名参加
▽11日 第22回新美南吉
童話賞表彰式開催▽19日

「朗読と南吉の愛したクラ
シック音楽」～クリスマス
コンサート～開催。於半田

市民交流センターホール。
110名参加。協力中京テ
レビ▽26日 第91回 新美

南吉研究会。14名参加▽29
日▽31日 館内くん蒸
1月(睦月)

▽5日 半田市教育委員会
が発行した『新美南吉幼年
童話集』発売(1セット

1500円)▽13日 半田
市立横川小学校で出前授業
行う▽29日 劇団角笛公

演「こんぎつね」チケット
発売▽30日 第24回新美南
吉顕彰講演会開催。於雁宿

ホール講堂。120名参加
4月(休館日)

4日(月)、11日(月)
12日(火)、18日(月)
25日(月)

5月の休館日
2日(月)、9日(月)
10日(火)、16日(月)

23日(月)、30日(月)